



うた：峰 万里恵 ギター：三村 秀次郎 ギター：高場 将美



1. ウパカライの思い出 *Recuerdo de Ypacaraí*

作詞：スレーマ・デ・ミルキン *Zulema de Mirkin* 作曲：デメトリオ・オルティース *Demetrio Ortiz*

作曲者はパラグアイ人の歌手・朗読家でギタリスト、政治的理由で母国を離れ、アルゼンチンで一生を終えました。この曲は、故郷のイパカライ湖のほとりでの実体験をもとに作曲。パラグアイ先住民のことばグワラニ語で歌詞をつけました。後年、アルゼンチンの女性詩人によるスペイン語歌詞で、広く知られるようになりました。

ある暖かい夜、わたしたちは知り合った、イパカライの青い湖のほとりで。あなたは悲しげに、道すがら

うたっていた、グワラニ語で、古いメロディの数々を。そして、あなたの歌の魔力とともに、わたしの中にあなたへの愛が生まれていった。満月の美しい夜の中、あなたの白い両手から、わたしに伝わった熱と愛情。

どこにいる？ むすめよ。あなたの柔らかい歌声はわたしのところにとどかない。すべてがあなたを思い出させる、イパカライの青い湖のほとり。わたしの愛はあなたを待っている、むすめよ。

2. クリオジータ・サンティアゲーニャ *Criollita santiagueña*

作詞：アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*
作曲：アンドレース・チャサレータ *Andrés Chazarreta*

タイトルを訳せば「サンティアゴの土地っ子女性」。サンティアゴは、アルゼンチン北西部にあり、少数のスペイン人と多数の先住民（インカ帝国からやってきた）とが400年ほど前に移住してきて開発し、独自の文化をもった州です。この曲は、フォルクローレ研究家でギタリストで（本職は公務員だった）、後には民俗芸能団を率いて大きな普及活動をした巨匠チャサレータが作曲あるいは採譜編曲したもので、形式は《サンバ》、スカーフを振りながら男女カップルで踊る、求愛のダンスです。1916年に楽譜出版されました。歌詞は、ずっと後年になって、大地の音楽を創作した、南アメリカ最大の巨匠（作詞・作曲家・ギタリスト・歌手・文筆家）ユパンキが付けました。

サンティアゴの土地っ子女、褐色の肌のきれいな娘。おまえのおかげで空気はいっぱいになる、サ

ンティアゴの恋歌のしらべで。

わたしの土地のいなか娘、黒いまつげ。サンティアゴの朝に咲く、おまえは林の花。

おまえが貯水池から水を運んでくるとき、昼寝の時間が、おまえの歌声で甘くなる。

サンティアゴの土地娘、編んだ黒髪。おまえゆえに男たちはうたう、サンティアゴの恋歌ビイダリータを。

ほかの人たちは、街のしゃれた女性をほめそやすだろう。でも、野のかわいいむすめ、わたしは おまえの午後にうたいたい、この おまえの目のように素敵なサンバを。

3. ラ・オルビダーダ（忘れられていたチャカレーラ） *La Olvidada*

作詞：アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*
作曲：ディーアス兄弟 *Hermanos Díaz*

サンティアゴの土の音楽家ディーアス兄弟（バンドネオンとギター）が弾いていた曲に、ユパンキが作詞し、みずからギターを弾きながらうたって有名にしました。日本では『忘却のチャカレーラ』という題になっていましたが、ちょっと内容からズレるようです。荒野の道ばたに忘れられていたチャカレーラをディーアス兄弟が

拾ってきたのです。

わたしは見つけた このチャカレーラ、砂地で 苦しんでいた、バラカカの土地っ子男に置き去られて——彼はもうフーミの繁みを見ることはないだろう。

このように ある土地っ子がうたっていた。サラ
ビーナの土地っ子が、アルガローボの木の下で、と
ある1月（真夏）の昼下がり。

もう行くよ もうわたしは行くところだ、チルカ
・フリアーナ町の方角へ。アイ 命のひと だれにも
わからない、わたしに明日 何が起きるか。

おれのいとしい人は おれを置いて行ってしまっ
た チルカ・フリアーナのほうへ。持って行ってし
まった、馬と荷馬車、あのボンボ（太鼓）と あの

4. シナモンの花 *La Flor de la Canela*

ダマフワーナ（アルガローボから作る酒などを入れ
る大きなかめ）。

わたしはちょっとした木になりたい、とても大き
くはなく とても小さくもない木に。ほんの少しの
影をあげたい、道に疲れた人たちに。

*フーミ＝塩の原に生える灌木。石けんの材料になるそうです。
*アルガローボ＝アルゼンチン北西部各地で非常に親しまれて
いるマメ科ネムリグサ属（ミモザの仲間）の木。さやに入った
豆が生る。地中海沿岸の原産。日本名イナゴマメ。

作詞作曲：チャブーカ・グランダ *Chabuca Granda*

ペルーの首都リマを代表する歌はワルツです。ワルツ
はヨーロッパの舞曲なのに変ですが、19世紀末～20世
紀初めに、リマのアフリカ系の住民が多い地区で、民謡
などを、ギターで即興の変化に富んだワルツ風のリズム
で演奏することが始まりました。やがて、いわゆるジャ
ズっぽい和音も付けられるようになり、1920年代から
は歌詞もちゃんとつくられてポピュラー・ソングの形が
定着しました。

この曲は、リマのワルツに、さらに高い芸術性と、ペ
ルー文化に深く根ざした性格を与えた女性チャブーカ・
グランダの作品です。タイトルは、実在した、あるアフ
リカ系ペルー女性の通称で、シナモンのような肌の色と、
薫り立つ魅力を讃えたものでしょう。リマの街の名物女

性のひとりでした。

わたしに語らせてください、思い出がまだ香りを失
っていない今。今まだ夢の中で揺れている、古い橋と
川と並木道が……。

髪にはジャスミン、顔にはバラの花。堂々とあでや
かに歩んできた《シナモンの花》。いたずらっぽさを
ふりまき、歩いていったあとに残していった、胸に飾
った香草の束の薫りを。

橋から並木道へ、かわいい足が彼女を運んでゆく。
通ってゆく歩道は、彼女の腰のリズムでふるえる。彼
女は川のそよ風の笑い声をひろって、風に投げている、
橋から並木道へ。

5. バルデラーマ *Balderrama*

作詞：マヌエル・J・カスティージャ *Manuel J. Castilla*

作曲：クチ・レギサモン *Gustavo “Cuchi” Leguizamón*

バルデラーマ兄弟の食堂兼酒場は、アルゼンチン北西
部サルタ市にあり、1960年代に種々のアーティスト、
詩人、歌い手、ミュージシャンといったボヘミアンの溜
まり場でした。現在もその名前で存続しますが、どちら
かという観光客向けのライブショーの店になってしま
いました。

この曲は、サルタを代表する高名な詩人と、親友の弁
護士・ピアニスト・作曲家が、合作したサンバです。

水路のほとり、朝がやってくる時、夜がうたい
ながら出てくる、バルデラーマの店から。

中は ただただ ふるえ。バグワラ（山歌）と

いっしょのボンボ。そして店は燃えながら乱れ騒ぐ。
ギターよ 火花を散らせ。

もしだれかが うたいはじめれば、馬車ひきがい
っしょにうたう。そしてワインのコップのひとつづ
つの中に、明けの明星がふるえる。

夜明けのサンバ、バルデラーマのざわめき。真夜
中にはうたっている、夜明け前には立っている。

明星……ひとりぼっち……暁の芽生え。わたした
ちの行く先はどこになるのだ、もしバルデラーマが
消えてしまったら。

6. ラ・サンドウंगा *La zandunga*

メキシコ、オアハーカ州伝承曲 *Música Tradicional Oaxaqueña*

元来はスペインの民衆舞曲の1ジャンルの名前だった
ようです。後にオアハーカ州の英雄とたたえられる、
ある将軍が首都の劇場でこれを聴いてとても気に入り、
自分のお母さんのために歌詞を書いて、同州に広めた

か……。現在では、オアハーカ州の非公式な州歌になっ
ていると思いますが、おなじ曲名（ジャンル名）のなか
に、気分は統一されていますが、まったく別のメロディ
がいろいろあるようです。歌詞はほぼ恋歌です。

おとといの夜わたしは あなたの家へ行った。錠前を3つ叩いたのに、にあなたは起きなかった。あなたは恋には役に立たない、眠りが深すぎる。

あなたの窓辺を通ったとき、あなたはわたしにレモンを投げた。レモンはわたしの顔に当たった。すっぱいジュースはわたしの心臓に。

II

1. ロ・ドゥード (わたしはそれを疑う) *Lo dudo*

作詞作曲：チューチョ・ナバーロ *Chucho Navarro*

作者はメキシコ中央部のアグアスカリエーンテス州の州都に生まれ、母の開いていた（父は早く他界）小料理屋で姉と2重唱、首都に出てラテンのダンスバンドの歌手、ユカタンのロマンティックな歌手のセカンドなどを経て、トリオ・ロス・パンチョスのリーダー（ギター／セカンド・ヴォイス／裏声ソロ）になりました。このボレーロの曲では、同トリオのレキント奏者アルフレード・ヒル創案の前奏や飾りのフレーズも有名です。

わたしは疑う——わたしがあなたを愛しているほどに、あなたを愛する人を、あなたが見つかるだろうということ。

あなたは見つかるだろう、愛のない千のアヴァンチュールを。でも、わたしがあなたに上げるような真心からの夢は見つからない。

わたしは疑う——わたしがあなたに抱いているような、純粋な愛情を、あなたが見つかることを。

2. とある不思議な世界 *Un mundo raro*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

グワナフアート州生まれで、首都で育ったホセ・アルフレードは、カンシオン・ランチェーラ（メキシコの地方人の感受性をもった歌謡）に、ジャンルを超えた深さを与えた最高の作者です。民衆詩人ならでは、すばらしいひらめきをもったことばで、率直に感情をあらわして、多くの人を感動・共感させます。

来たと、あなたは泣くことを知らないと、あなたは愛を理解できないと、そして一度も愛したことがないと。

なぜならわたしは どこへ行っても あなたの愛のことを話すだろう、ひとつの金色の夢のように。そして恨みを忘れて、言わないでいるだろう、あなたの別れが わたしを不幸な人間にしたことを。

人があなたに愛と 夢のことを話したとき、そしてあなたに太陽をひとつと、空をまるごとひとつ差し出したとき、もしあなたがわたしのことを思い出しても、わたしの名前を言うてはいけません。なぜならあなたは わたしの愛こそほんものの愛だったとを感じるだろうから。

そしてもし人が あなたの過去を知りたがったら、うそをひとつ つかなければなりません。言いなさいあなたはあちらから来たと、ある不思議な世界から

そしてもし人が わたしの過去のことを知りたがったら、もうひとつのうそを つかなければなりません。わたしは人々に言おう、わたしは ある不思議な世界から来たところだと、わたしは痛みというものを知らないと、わたしは愛に勝利をおさめたと、そして決して泣いたことがないと。

3. あなたはどうなっているのだろう *Qué será de ti*

作詞：マリーア・テレーサ・マルケス *María Teresa Márquez*
作曲：デメトリオ・オルティース *Demetrio Ortiz*

ふたたびパラグアイ人作曲家オルティースのロマンティックなメロディ。作詞は、アルゼンチン人で、パラグアイ音楽をほぼ専門にうたって、多くのレコードも残した女性マリーア・テレーサ・マルケスです。

彼女はブエノスアイレス生まれとのことですが、両親は先住民グワラニの土地（パラグアイ、アルゼンチン北東部、ブラジル南部）の人だと推察されます。

あなたは、どうなっているのだろうか？ あなたの心の夢が、ついに枯れてしまったとき。そしてあなたが感じたとき——もう、人生が過ぎてゆきながら、あなたに苦悩を残していったことを。

それは、理解することの苦悩——わたしたちに愛が与えてくれる、あの信じる心なしには、なにもあり得ないと。

あなたにわたしのことを話すだろう、わたしたちが歩き回ってきた、すべての道たちが。そこでわたしたちが生きてきた時間をあなたに思い出させなが

ら……。そしてあなたは、わたしの愛にノスタルジーを感じるだろう。あり得なかった愛が、帰ってくることを願いながら。

あなたは、どうなっているのだろうか？ あなたがひとりになったとき、そしてわたしのあこがれていたもののすべてを思い出したとき。

わたしの忠実な愛が、あなたといっしょにいるだろう。そしてあなたのがさを消すだろう。なぜなら、わたしの祝福の許しのなかに、あなたは平和を見つけるだろうから。

4. 銀のさかずき フワイの町 *Tacita de plata*

作詞：ホセ・アントーニオ・ファロ *José Antonio Faro* 作曲：シモン兄弟 *Hermanos Simón*

シモン家の5人きょうだい（バンドネオン、ギター2、ボンボ、女性歌手）は、サンティアゴ出身で、1930～60年代、フォルクローレのダンス・パーティやラジオ放送で、この地方に根ざして活動しました。

この曲はサンバのリズムです。

数々の山の頂と雪のあいだにおまえはいる、青空の下で輝きながら。銀の小さなさかずき、アンデスが形づくったさかずき。そしてそれをインカ皇帝は名づけた——フワイ、フワイ！

だれか年とった羊飼いのケーナが、アイランポ（サボテンの1種）の茂みに悲しくひびく。チュルキは香りを放つ、サボテンは花を咲かせる。そして山では歌になる、ひとつの泉が。

とある悩みを 風がいっしょに連れて行った。ア

ンデス高原の 限りない孤独を通して。山は泣いた、その永遠の痛みを。そしてエルケ（角笛）には芽生えた、この歌のしらべが。

コージャは このわたしの同じ声でうたう。粗けずりで美しい鉱山の節まわし。野生のバグワラ、百の愛のうた、それらを石たちのなかに残していったのは カーニバル。

そしてふたたび 夢見るために わたしは帰ろう あちらのほうへ。

溪谷と谷間たち、わたしの声がたどり着くだろう、そして山々のなかで言うだろう——フワイ、フワイ！

チャランゴとケーナたちは 数百年を経た声でわたしのサンバの中で言うだろう——フワイ、フワイ！

5. ヴァイオリンのチャカレーラ *Chacarera del violín*

作詞：ハビエール・シピオーロ *Javier Zipiolo* 作曲：シモン兄弟 *Hermanos Simón*

シモン兄弟のつくったチャカレーラ。いまでもダンス用に、たいへん人気のある曲です。

遠くで、とあるチャカレーラに乗って鳴っているヴァイオリン。風といっしょに悲しく嘆いている、カクイ・トゥライの哀歌のように。

どこから来たのだ あの老人は？ スーパイ（悪魔）そのものにちがいない。人のいうには、目が見えなくなったのだそうだ、テレシータのことを泣きすぎて。

マノガスタの道。スマンパの、マイリーンの道。ひとびとは彼が泣きながら通るのを見た。哀れな盲人、ヴァイオリンを弾きながら。

朝が近づいてくる。そして盲人はもう行ってしまふ。テレシータは死んでしまった、あんまり、あんまり踊って、踊ったので。

もう鳥たちはうたわない。そしてすべては沈黙の中にある。たぶん鳥たちはまた来るのだろう、来年カーニバルが帰ってきたら。

そして盲人は彼のヴァイオリンをもって、道を通ってやってくるだろう。テレシータが踊るために、

このチャカレーラを弾きながら。

テレシータはじぶんを燃やしている。止まることなく踊っている。哀れなむすめよ、踊るがいい。いつも彼女ゆえにヴァイオリンが泣くだろう。

*カクイ・トゥライ＝鳥の名前。夜「カクーイ、トゥライ、トゥライ」と劇的に悲しく鳴く。これはキチュア語（インカ帝国の言語のサンティアゴ方言）で「わたしの男の子、わたしの弟よ」という意味。男きょうだいに、木の上に取り残された若い女性の化身といわれる。

*スーパイ＝インカ帝国の文化圏に広く信じられてきた大地の精霊。カトリックの「悪魔」とだいたい同じだが、人を助けることもある。ボリビアあたりでは、鉱山の守護神として偶像がまつられるが、サンティアゴでは形がなく、さまざまに人間の姿に化ける。

*テレシータ＝伝説上の（実在したらしい。本名テレーズフォラ・カスティージョ）、サンティアゴの森にひとりで住んでいた女性。村でダンスのパーティがあると、音を聞きつけてやってきて、外でいつまでも楽しげに踊っていた。ある夜、彼女が来ないので不審に思った村人が翌日探したところ、燃え尽きた焚き火のそばで焼け死んでいた。音楽の音が聞こえて、喜んで夢中で踊りだして、スカートに火が付いてしまったのだろうと推測されている。今日では幸運を授けてくれる、カトリックの聖女なみのあつかいで、絵姿などに供え物がされる。

6. ラ・ポメーニャ (ラ・ポーマの歌い女) *La Pomeña*

作詞：マヌエル・J・カスティージャ *Manuel J. Castilla*

作曲：クチ・レギサモン *Gustavo "Cuchi" Leguizamón*

『バルデラーマ』の作者コンビによるサンバ。この曲は、サルタ州のアンデス山岳地帯、海拔4000メートルのラ・ポーマ町で出会った歌う女性からインスピレーションを受けました。

エウローヒア・タピアは、ラ・ポーマで 空気に彼女のやさしさを与える——彼女が砂の上を通るとき、月を踏んでゆくとき。

彼女が刈ってゆく小麦は、彼女の胸で熟す。アルファルファの花を見ながら、彼女の黒い両目は青くなる。

カーニバルの遊びで粉をかけられて、彼女の顔は真っ白になる。彼女の影は砂まみれになる。うたいながら、歌の魔法を解きながら、彼女の悩みたちは闘い合う。

彼女は、白い馬に乗ってやってくる。彼女の両手の中でカーハ（小太鼓）がふるえる。夜の中に沈んでゆくとき、彼女は褐色の肌のダリアの花。

おまえの家の柳の木は、泣いている。なぜなら人々がおまえを盗んでいくから——カーニバルのために、彼女がなくてはならないから。



1. レハニーア *Lejanía*

作詞作曲：エルミーニオ・ヒメーネス *Herminio Giménez*

作者はパラグアイ音楽史上もっとも尊敬されている巨匠のひとりです。このような抒情的な歌曲から、映画音楽や交響曲まで作曲しました。子どものときの最初の楽器はブラズバンドのチューバでしたが、後にはバンドネオンの演奏で有名でした（オーケストラ指揮が本業？ですが）。1920年代からブラジル、アルゼンチンなどにパラグアイ音楽を知らせた先駆者です。自由を愛する理想主義者だったので、独裁政権時代のパラグアイには住めず、約40年間アルゼンチンに亡命していました（1991年、86才で没）。

この曲は1937年（32才）、10代のころの初恋の女性を想って、アルゼンチンで作詞作曲しました。

遠い最初の愛、わたしの子どもころの初恋、なんとつかしいことだろう。遠い至上の愛、青い夢、おまえはどこにいる？

遠くなってしまった、あの数々の午後の思い出、愛情の午後。思い出たちは、わたしの記憶に寄り集まってくる、プカスー（野鳩の1種）の群れのように。

わたしの魂を焦がす思い出たち。きょうわたしの人生は悲しい。だからわたしは口ずさんでゆく、この悲しい歌を、純粋なグワラニーの歌を。

わたしの遠い愛、どこにいるのか？ わたしを見捨てたあの日から。あの人は決して知らないだろう、わたしがもの言わず耐えていることを、あの人が去るとき残していった、この大きな空白を。

時は過ぎた、でもわたしは待ちながら生きている。その人が帰ってくる日を。そのとき、わたしの信じる心は美しい光になるだろう。その光が照らしてゆくだろう、この長い夜々を、みなしごのわたしの夜々を。

2. ケ・テ・バージャ・ボニート *Que te vaya bonito*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

題名は「あなた（の人生）がうまくいきますように」といった意味です。

あなたがうまく行きますように、あなたの悩みが終わりますように！ もうわたしなんか存在しないと人々が言いますように。あなたがもっと心やさしい人たちを知りますように！

あなたが、わたしが上げることのできなかつたものを、もらえますように——わたしはあなたにすべてを捧げたのだけれど——。二度とわたしはあ

なたにめいわくをかけないだろう。あなたを愛し、失った。もう、どうにもならない！

あなたのいないことが、わたしを殺すかどうか知らない、わたしの胸は鋼鉄でできているけれど。でもだれにもわたしを卑怯者と言わせない——わたしがどこまであなたを愛していたか知らないくせに。

あなたが とってもうまくいきますように！

3. アザレアの花 *Flor de azalea*

作詞：サカリーアス・ゴメス *Zacarias Gómez Urquiza*
作曲：マヌエル・エスペロン *Manuel Esperón*

作曲者はメキシコ市生まれ、父親はオアハーカ州出身、母親はフランス人ピアニストでした。音楽大学で勉強していたとき、最初に来た仕事が映画音楽だったので、それ以来ずっとこの分野で活動。約400本の映画の作曲・編曲・オーケストラ指揮をしてきました。1911年生まれ、現在も自宅でピアノを弾いています。作詞者は、映画の脚本・監督が本業でした。

あふれるほどの大河に、なすすべもなく運ばれるま
まになっている水の泡になって、アザレアの花よ、人
生がそのなだれの中に、あなたを引きずっていった。
でも、救われたときあなたは、守ってくれる場所を
見つけることができた。そこであなたの、痛みで傷つい

た心はいやされた。

あなたのほほえみは、黒い時間の流れを映してい
る。あなたのまなざしは、もっともにがい絶望を。
きょう、永遠にあなたが、過ぎた悩みを忘れるこ
とをわたしはのぞむ。そして、ただただ安らかな時
間だけをもつように、あなたの心が。

わたしはなりたい、つばめに——夜明けに、あなたの
窓辺にやってくる見たい、ガラス越しに。
そしてあなたをととても甘く目覚めさせる、もしあ
なたがまだ眠っていたら、新しい人生のあけぼのに。
愛に満ちた人生のあけぼのに。

4. フィーナ・エスタンパ（優雅な姿） *Fina estampa*

作詞作曲：チャブーカ・グランダ *Chabuca Granda*

きょう2つめのペルーのワルツ、これもチャブーカさ
んの作品です。愛する人——亡くなった彼女のお父さん
——の優雅な姿を想ってつくられました。

楽しげな歩道、太陽か月の光を浴びて、ベルトのよう
に伸びてゆく——両側には朝焼けと夕焼け。ゼラニウムの
朝焼けと、恥じらいをもったほほえみ。カーネーショ
ンの夕焼けと、花ひらく両ほほ。

マグノリアに薫り、夜明けの露をやどして、歩道はほ
ほえむ、あなたの両足の愛撫を受けて。窓辺の鳥かごで
ククリー鳩が笑い、窓は身をふるわせる、あなたの優雅
な姿が歩道をそぞろ歩くとき。

歩道はあなたを、あちこちの玄関へ運んでゆく、魔法
の中庭に向かう、小さな広場へ向かう、夢に見た愛のと
ころへ。歩道の子守唄は、タフタのドレスのきぬずれの
音、絹のブーツのヒールのひびき、糊のきいたペチコ
ートの音。

その楽しげな歩道を、わたしも歌って歩きまわろう、
あなたを捕まえられるかもしれないから。優雅な姿の紳
士、あなたが来るまで待ってられる人なんていない。

優雅な姿の紳士、明星が帽子の下でほほえんだとし
ても、あなたのように美しく、輝くほほえみはできない。
あなたの歩みは、どんどん進んでゆく歩道を輝かせる。

5. わたしのことを思って *Piensa en mí*

作詞作曲：アグスティーン・ララ *Agustín Lara*

メキシコの熱帯ベラクルース州の血を弾く作者は、
10代なかばから、家出して、怪しいナイトクラブのピ
アニストになり、やがてはメキシコのみならずラテン
アメリカ全体で最高のポピュラー音楽作者という名声
を獲得しました。

もしあなたが深い悩みをもつなら、わたしのこ
とを思いなさい。もしあなたが泣きたいのなら、わた
しのことを思いなさい。

あなたも知っているように、わたしはあなたの至

高のイメージを崇拝している。あなたの幼いくちび
るは、こんなに子どもなのに、わたしに罪を犯すこ
とを教えた。

わたしのことを思いなさい、あなたがだれかにキ
スするとき。あなたが泣くときもまた、わたしのこ
とを思いなさい。

あなたがわたしの命を取りたくなったら、わたし
にはそれはいらない。まったく欲しくない、命はわ
たしにはまったく価値がない。あなたなしでは、

ごいっしょに時間をすごしていただきありがとうございました。
今後ともよろしく願いいたします。

選曲・構成：峰 万里恵
プログラム作成：高場 将美